

「もんじゅ」を廃止し、核燃料サイクル政策から撤退し 日本が核武装しないことを世界に示そう！

核燃料サイクル 日本の原子力政策の特徴は「核燃料サイクル」という言葉で表されます。核燃料サイクルを一言で言えば長崎型原爆の材料であるプルトニウムを利用する政策です。プルトニウムは天然自然には存在しない物質で原子炉を用いてウラニウムから製造されます。

もともと原子炉というものは、このプルトニウムを製造するために考案された設備です。たまたまプルトニウム製造の「おまけ」として発熱をするものですから、この熱を発電に利用しようという勿体ない精神の発露が原子力発電所の起源と言えるでしょう。

兵器級プルトニウム プルトニウムと一口に言ってもいくつかの種類があります。原子核は陽子と中性子から出来ていますが、陽子の数で原子の化学的性質が決まります。中性子の数の違いは核反応の性質の違いになります。この中性子の数の違う原子を同位体と呼びます。プルトニウムの同位体には238～242まであるのですが、特に重要な同位体はプルトニウム239です。簡単に言えば、プルトニウム239の比率が高ければ高いほど核兵器に向けたプルトニウムとなります。実際に核兵器に用いるプルトニウムは、プルトニウム239の割合が94%以上必要です。

日本の一般的な原子力発電所の原子炉は軽水炉と呼ばれる形式です。軽水炉の通常運転で作られるプルトニウムは、239の比率が60%程度です。核爆発は可能ですが、装置が大きくなって運搬できないなど、核弾頭には向きません。一般的に核兵器に使用されるプルトニウムは黒鉛減速炉で生産されます。1986年に大事故を起こしたチェルノブイリ原発や日本で最初の商業炉である東海原発がこの形式です。

兵器級生産原子炉「もんじゅ」 福井県敦賀市にある特殊原子炉「もんじゅ」で作られるプルトニウムは239の比率が98%以上ですから、最高級の原爆用材料を作ることができます。青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場はこの「もんじゅ」に燃料を供給する目的で計画されました。軽水炉で製造された核弾頭に向かないプルトニウムが再処理工場から高速増殖炉に送られ、核弾頭に適したプルトニウムに生まれ変わ

ります。

「もんじゅ」を「夢の原子炉」と呼ぶ人もいますが、エネルギー源としては役に立ちません。しかし、高純度の核兵器材料を製造することができます。まさに、「悪夢の原子炉」です。

日本は特別？ 2009年5月、ジュネーブ軍縮会議で兵器用核物質生産禁止条約(カットオフ条約)の交渉が開始されました。我が国政府はこの条約には平和目的の核物質生産は含まれないとしています。日本政府は「皆さん、プルトニウムや濃縮ウランの生産をやめましょう！我が国だけは平和目的の為に生産します」と主張しているのです。

これは核武装を目指す国の「悪い手本」となるでしょう。「平和利用」を掲げ国際機関の査察を受けつつ「軍用」プルトニウムを生産し、十分備蓄した後に核武装を行えば、国際的制裁のリスクを最小限に止めることが出来ます。(しかも「自国の平和の為に核武装を行なった」とうそぶくことでしょう！)

他の国から「日本と同じように我々も兵器級プルトニウムを生産する」と宣言されたときに一体どう答えたら良いのでしょうか。各国の主張を受け入れた場合、平和目的の名目で「軍用」プルトニウム生産が継続され、条約は実効性を失います。あるいは核武装可能な国のプルトニウム生産を認めず、日本のプルトニウム生産だけを認めれば、不平等を理由に条約は物別れに終わるでしょう。隠れて核武装しようとする国の嘲笑が聞こえるようです。日本のプルトニウム生産政策が核不拡散の足を引っ張ることは明白です。核廃絶を国是とする国のすることではありません。

「核なき世界」へ 最も重要な核兵器保有国である米国が、商業用再処理を止める宣言をしてから「核なき世界」を呼びかけたことで「核の時代」の終わりの兆しが少しだけ見えてきたのかもしれませんが、「事実上の兵器用核物質」の生産を実際に停止して見せることで世界に範を示すことこそ、世界で最初の被爆国として核廃絶を国是とする日本の役割ではないでしょうか。

〒101-0061東京都千代田区三崎町2-2-13-502
TEL 03-3261-1128(午前中)、Eメール: syomei@kakukaihatsu-hantai.jp

「もんじゅ」廃止署名実行委員会

署名運動カンパの送金先 郵便振替: もんじゅ廃止署名 00120-6-428762
<http://kakukaihatsu-hantai.jp/syomei>

「もんじゅ」は核兵器材料のプルトニウムを生産します！

「もんじゅ」廃止を求める署名

内閣総理大臣 殿

「もんじゅ」再開の動きを受けて、運転再開反対署名を2007年10月から2009年2月まで行なってきました。総数10042筆を2009年2月24日に提出しました。この間「もんじゅ」運転再開の動きは止まっています。「廃止」を求める声が高まって来たため、あらためて「もんじゅ」の廃止を求めることとなりました。

福井県敦賀市にある特殊原子炉「もんじゅ」は正常に運転されれば、①年間62キログラムの兵器級プルトニウムを生産します。これにより、毎年約30発の原爆を製造することができます。このほか、②立地点が活断層の上、③ナトリウムなどの危険、④プルトニウム増殖のウソ、⑤今後も予想される巨額の経済的負担、という問題があります。

請願内容

長崎型原爆材料のプルトニウム 大量生産をやめてください。

署名者氏名	住所

署名用紙の集約先: 〒101-0061東京都千代田区三崎町2-2-13-502

「もんじゅ」廃止署名実行委員会

TEL: 03-3261-1128(午前中)、Eメール: syomei@kakukaihatsu-hantai.jp
署名運動カンパの送金先 郵便振替: もんじゅ廃止署名 00120-6-428762
<http://kakukaihatsu-hantai.jp/syomei>

第一次集約 2009年10月末、第二次集約 2010年1月末 (変更になりました)

- この署名運動は、費用をカンパで維持いたします。郵便振替でお願いします。

もんじゅ廃止を望む5つの理由

〒101-0061東京都千代田区三崎町2-2-13-502
TEL 03-3261-1128(午前中)、Eメール: syomei@kakukaihatsu-hantai.jp

「もんじゅ」廃止署名実行委員会

①兵器級プルトニウムの生産

「もんじゅ」は、六ヶ所再処理工場で原発の使用済み燃料から抽出されたプルトニウムを燃料として用い、核爆弾用として極めて優れた「兵器級プルトニウム」(注)を生産する特殊な原子炉です。兵器級プルトニウムは常識で考えれば「軍用」として生産されるものです。これを「平和目的」という名目で生産することは、諸外国から核武装の為の隠れ蓑とみなされても仕方ありません。ナトリウム漏れ事故までの試運転期間中に「もんじゅ」は17キログラムの兵器級プルトニウムを生産しました。運転が再開され、正常に運転できれば、毎年62キログラムの兵器級プルトニウムを生産します。62キログラムの「兵器級プルトニウム」から、約30発の原爆を生産することができます。10年もすれば、中国と同規模の核兵器保有国家になることも可能です。世界最初の被爆国として、核廃絶を国是とする日本が、大量の「兵器級プルトニウム」を生産、貯蔵することは、「核なき世界」を求める世界各国の信頼を失うことになりかねません。

③ナトリウムの危険

「もんじゅ」は原子炉につながる配管からナトリウムを漏らして火災事故を起こしました。本格的な工事を行えば、費用は1000億円かかると思われました。しかし、本格的な設計変更は見送られ、180億円で済ませたおぼろげな修理を行っただけで運転を再開しようとしています。修理後の「もんじゅ」も、ナトリウム漏れ事故など周辺部のどこかから事故が始まり、原子炉本体に波及して、放射能漏れの大事故になる可能性があります。

⑤巨額の経済的負担

「もんじゅ」の建設費用に8827億円かかりました。発電設備は28キロワットですから、1キロワットあたり315万円です。普通の原発は1キロワットあたり30万円程度ですから、10倍以上の費用がかかっています。これでは商業発電など夢物語です。修理が終わり、運転を始めると10年間でさらに約2000億円と、巨額の追加費用が必要になります。9千億円弱の予算をつぎ込み、失敗を認めずに更に2000億円の費用をつぎ込もうとしているのです。

「もんじゅ」によって、兵器級プルトニウムを生産し蓄積すると、いずれこれを使用したいという人々が現れることとなります。この動きが現実になったら、もはや止めることは不可能になるでしょう。「もんじゅ」を廃止し、核燃料サイクル政策から撤退し、世界に核廃絶を訴えましょう。

②直下に活断層

「もんじゅ」の運転再開を延期した理由の一つは、立地点に活断層があることです。C断層と呼ばれる長さ18kmの断層と長さ15kmの白木-丹生断層が敷地の真下にあります。両断層とも想定されている地震はM6.9ですので、東京電力柏崎刈羽原発に大きな被害を与えた2007年7月の新潟県中越沖地震(M6.8)より大きな地震が真下で起きる想定になっています。活断層の上の原発を運転するなど、正気の沙汰ではありません。

④プルトニウム増殖のウソ

高速増殖炉はあたかも既に実用化された技術のように宣伝されていますが、現在では実用化予定が2050年になっています。40年前にはすぐにでも実現されるかの如く宣伝されました。年月が経てばたつほど実用化の時期が遠のく「実用化しない技術」のパターンです。「もんじゅ」はプルトニウムの増殖をうたい文句にしていますが、「もんじゅ」の中でいくらか増えても、再処理で全量が回収できなければ増殖にはなりません。「もんじゅ」の炉心では貴金属も大量に生成されるので、硝酸に溶けない貴金属に邪魔されて完全にはプルトニウムが取り出せません。実際には増殖しないのです。

注) 核兵器に用いるプルトニウムは、プルトニウム239の割合が94%以上です。「もんじゅ」の炉心燃料を包むブランケット燃料で作られるプルトニウムは98%以上ですから、最高級の高純度材料です。

一般の原子炉で作られるプルトニウムは、60%程度です。核爆発は可能ですが、装置が大きくなって運搬できないなど、核弾頭に使用するものではありません。

「もんじゅ」の位置

